

平成28年12月

『町内会・自治会での「見守り・支え合い」を考えるつどい』について
【 宇治西地区 】

1. 概要

[日時] 平成28年12月20日(火) 14時00分～15時30分

[会場] 宇治市産業振興センター 多目的ホール

[参加者] 町内会・自治会役員(代理含む)

申込		参加	
団体数	申込者	団体数	参加者
22団体	28名	20団体	26名

宇治市地域包括支援センター	3名
宇治市社会福祉協議会	2名
宇治市文化自治振興課	5名

2. 当日の流れ

- (1) 始まりの挨拶 【文化自治振興課】
- (2) 地域懇談会の趣旨等についての説明 【文化自治振興課】
- (3) 地域で活動する組織の活動紹介 【宇治市社会福祉協議会】
【地域包括支援センター】
- (4) 懇談

1組8名程度のグループに分かれ、グループワークを行いました。

文化自治振興課職員が進行役を担当し、「同じ地域住民同士でお互いの生活をどう支え合っていくのか」という視点で、参加者の皆様に、地域の理想像から、日頃考えていることや課題、実際に取り組んでおられる活動等について、意見・情報交換を行いました。

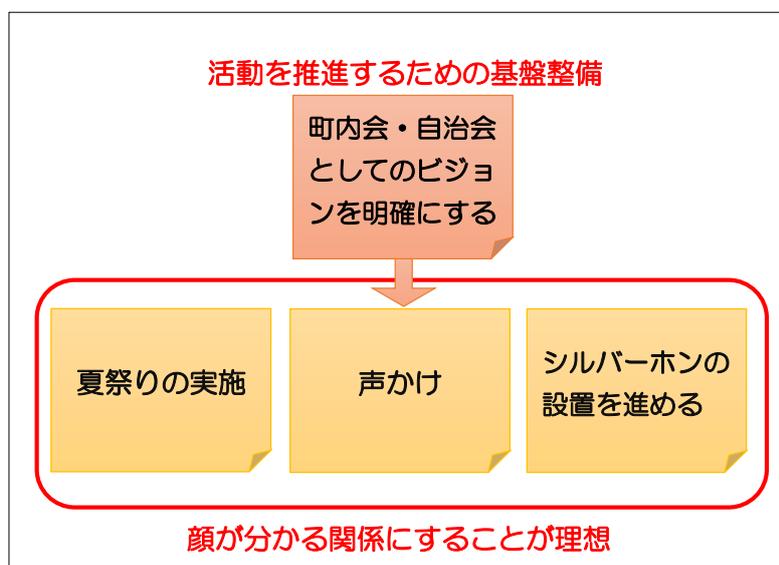
※ 模造紙と付箋、ペンを用意

発言等

<Aグループ>

- ・ 世代を超えた交流ができるイベントを開催することで、普段見かけない人にも、イベントを通して、知り合うことができる。
- ・ 以前は夏祭りを開催していたが無くなった。
- ・ シルバーホンの設置について、町内会全体で対象者及び希望者を募り、まとめて市役所へ申請したが、高齢の方には大変喜んでもらえた。

- ・ 世帯数が多い町内会・自治会は運営が難しいため、組数を多くし、組長1人あたりの負担を少なくしようとしたが、意見が分かれ実現できない。一方、現状では不満を抱き、脱退する人もいる。
- ・ 活動に積極的な方が少ないのが現状である。
- ・ 自治会としてどうしていきたいか、ビジョンを明確にし、会員に示してきたことで、どんな人でも役を引き受けてくれる。
- ・ 認知症安心サポーター養成講座を、講師を招いて行っている。
- ・ れもんカフェ（認知症カフェ）を自治会で開いている。
- ・ 気軽に集まることのできる場を提供している。
- ・ 高齢者では出来ないこと、業者に依頼したり、自治会内で有志を募ったりしている。
- ・ 会員に自治会に加入するメリットを明確に伝える。
- ・ マンションは、他の住民とコンタクトを取ることが難しい。
- ・ 防災に力を入れており、自治会を解体し、自主防災組織に一本化しようという話がある。
- ・ 「もう年だから」という言葉がない地域を作れたらいいと思う。
- ・ いくつになっても、身体・認知機能が衰えても、やりたいことができる地域になれば、いいと思う。



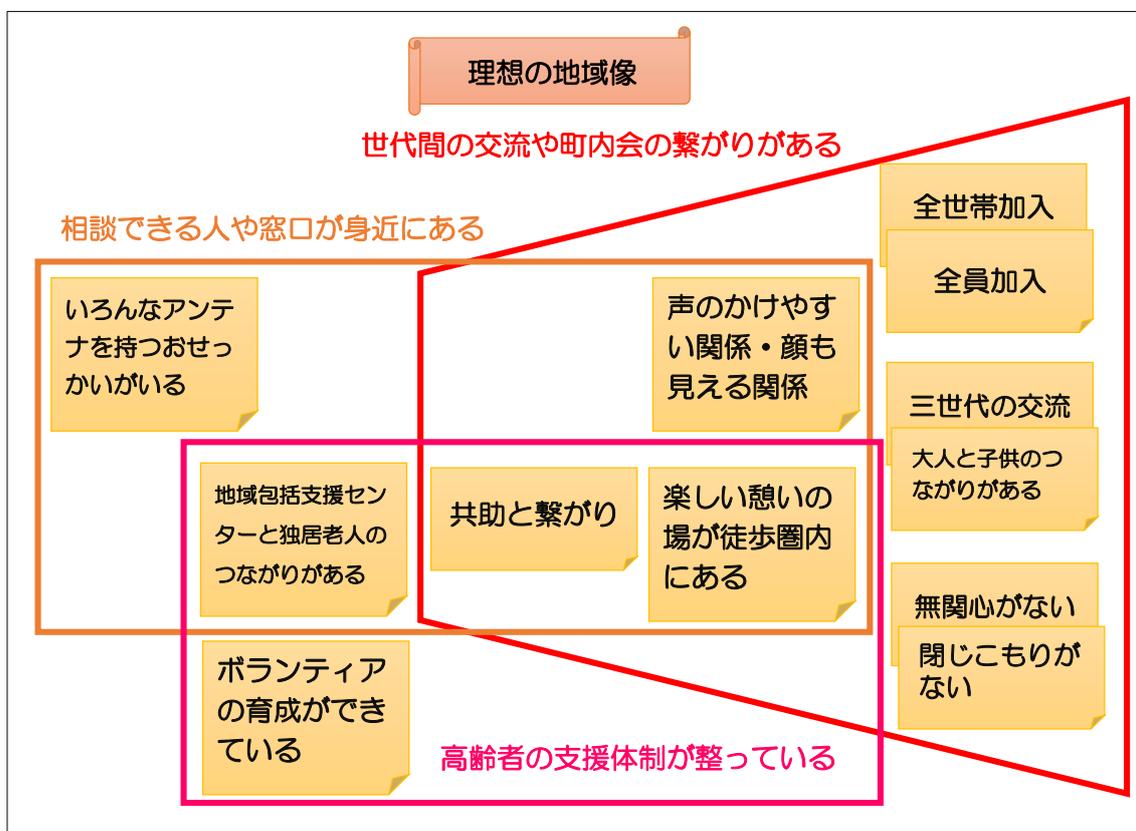
< Bグループ >

- ・ 民生員との情報共有・意見交換できる関係が重要である。
- ・ 独居老人の孤独死があったが、誰も気が付かなかった。
- ・ 組同士の交流、一人暮らしの場合は様子を見たり、洗濯物を干していなかったら声をかけたり、高齢者同士でもお互いに気に掛け、交流の場を設けられればと思う。
- ・ 運動会や行事への参加の呼びかけをする。

- ・ 運動会や地蔵盆等への参加を呼び掛けることで、参加してくれる人もいるので、実施した方がよい。
- ・ 子どもたちとの挨拶や交流も大切。
- ・ 子どもの交流も大切だが、まず、親の交流がなければ、子供の交流につながらない。
- ・ 学校との連携も必要と考える。
- ・ 個人情報が大きな問題となる
- ・ 近隣住民の家族構成（一人暮らし、高齢者がいる等）を把握しておくべきであり、加入・未加入に関わらず、名簿作成までせずとも「知ること」が大切である。
- ・ 日頃の繋がりをどのようにしていくかが、重要である。
- ・ 顔の見える関係が大切であり、役員になったことで、ほとんどの方の顔が分かるようになったが、顔と名前が一致しない方はいる。
- ・ 知らないと何かあったときの対応ができない。
- ・ 「おはようございます」がない人もいる。
- ・ 良いことも悪いこともあるが、声かけが大切。
- ・ 困ったときなどに声をかけられる人が近隣にすることが大事である。
- ・ 顔見たら必ず声をかける。
- ・ 会員の中には、高齢者のことを考えることもなく、自分たちに必要なことさえも放棄している方もいる。
- ・ 地域が安心して暮らしていくために空き家対策ができている地域がよい。
- ・ 空き家が増えた。
- ・ 町内会費で花壇を整備したり、誘い合って集まりを開いたりしている。
- ・ 毎月、高齢者を対象とした催しを開催している。
- ・ 会長になって初めて知ったことが多く、1年でやっと理解したところである。
- ・ 役員だけでなく、有志を募って、活動に協力してもらっている。
- ・ 会長が1年交代だと、慣れた頃に交代するため、活動が同じことの繰り返しとなる。
- ・ 自治会の役を1年交代ではなく、2年交代にしている。
- ・ 役を2年、3年と続けてくれる人が必要であるが、難しい。
- ・ 役の期間を継続することがないように1年と定めたが、活動が鈍った。
- ・ 役員をしたくないという理由で脱退する方が多い。
- ・ 高齢化が進んでおり、世帯数が減少しているため、他と合併しないと継続が困難と考えている。
- ・ 高齢化により、役員のみならず手不足で、活動が停滞しつつある。
- ・ 70歳以上の会員が年間に2、30人増加するため、敬老会での祝金を減額した。
- ・ 脱会者が多いため、会費を減額した。

< Cグループ >

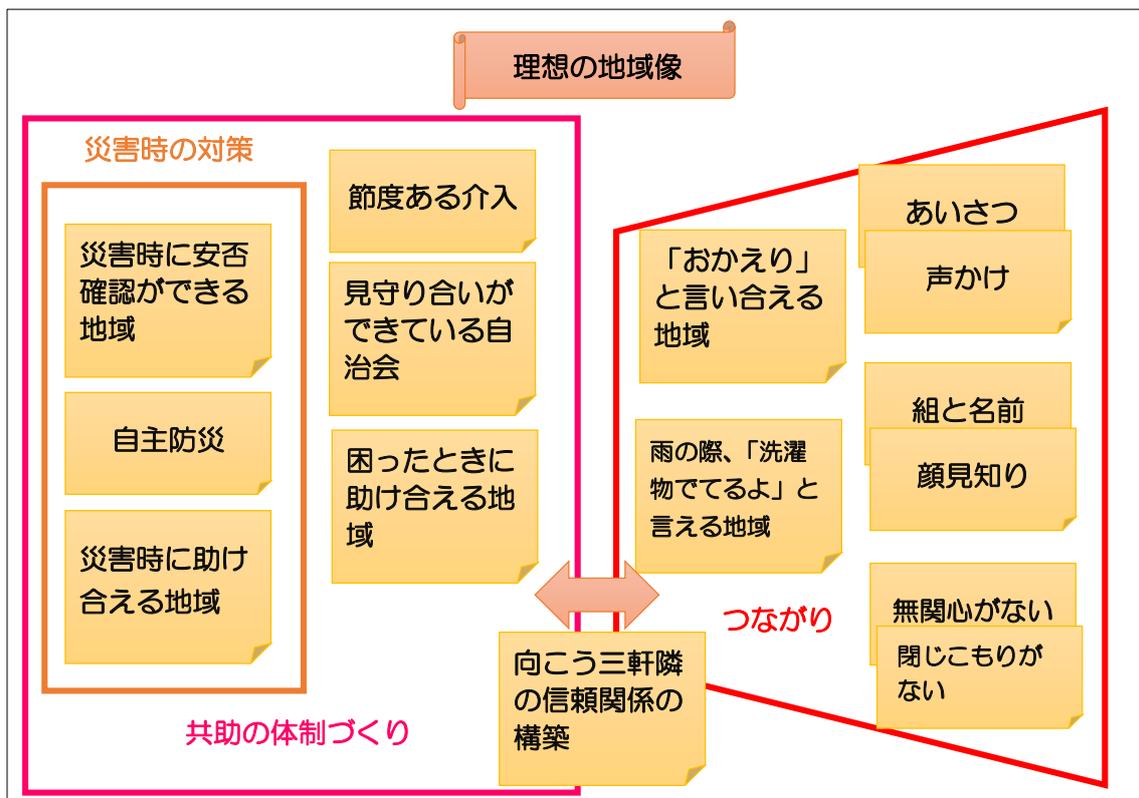
- ・ 自治会内でボランティアを募っての地域を綺麗にするという活動をしている。
- ・ 高齢者の一人暮らしで困っている方が多いことが分かったため、社協の協力のもと、高齢者の一人暮らしの方を見守り団体を立ち上げた。
- ・ 地域の見守り活動を行っているが、そのなかで、高齢者の話に耳を傾けていると困りごとがわかる。
- ・ 活動が口コミで広がり、参加する方もいる。
- ・ もっとも困っているのは、高齢者の一人暮らしの方へのケアである。
- ・ シルバーホンの設置等を案内している。
- ・ 地域にはできることがあればやりたいが、活躍の場がないという方が結構いるのではないか。
- ・ 何か出来ることがあればしたいと思っている方が、活動できる場がある地域が理想である。
- ・ 町内会のお祭りの情報を伝えたりすることで、地域との繋がりを持ち続けてもらうということは大切である。
- ・ 町内会・自治会が広報板の役割を担い、包括や行政と地域の高齢者をつなぐパイプ役になれば、より良い地域につながるのではないか。



- ・ 人口構造が逆三角形となっている。
- ・ 活動は地蔵盆等の現状維持のみとなっている。
- ・ 高齢化等でいつの間にか運動会がなくなるなどの衰退が見られる。
- ・ 町内会に対し、民生委員や社協、包括等の団体について、周知を図るため、もっと広報してはどうか。
- ・ 地域で困っている方を網羅するには、民生委員や社協等の専門職だけでなく、地域住民の協力が必要である。
- ・ パソコンを使える環境の整備が必要である。
- ・ 町内会の活動広報等のひな形があるとよい。
- ・ 地域包括支援センターがどんな活動をしているのか話を聞きに行きたいと思う。

<D グループ>

- ・ 外出時に挨拶するようにはしている。
- ・ 挨拶や声かけが難しい時代である。
- ・ 会員の顔と名前が一致するようになればいいと思う。
- ・ 同じところに住んでいる住民同士が仲良くという意識が大切である。
- ・ 向こう三軒両隣の信頼関係の構築が大切である。
- ・ 隣にはどんな人が住んでいるかを知っておくべきである。
- ・ プライバシーの問題があり、家族構成等を把握することが難しい。
- ・ 個人情報により開示出来ない情報が多い。
- ・ 一番大切なことは住んでいる方が住みやすいと思ってもらうことである。
- ・ 自宅に引きこもりやすい方をでてきてもらうため、定期的に体操や絵手紙等の教室を開いている。
- ・ 自治会内でサポーターが活動できる団体を立ち上げた。
- ・ 自治会内でサロンを開いている。
- ・ 高齢者が自由に語れる場の必要性を感じた。
- ・ 各自治会で、集える場があればよい。
- ・ 誰かが活動をはじめることにより、次の人が出てくるのではと考えている。
- ・ 近所同士で助け合いができればいいと考えている。
- ・ 住民同士が支え合える仕組みをつくりたいと考えている。
- ・ 出てくる人はいいが、それでも出てこない人に対して、どう対応するか、つながりがない方への対応が課題である。
- ・ 活動に使用できる公共施設は、活用すべきである。
- ・ 何が必要かを常に考えている。
- ・ 自治会は住民からの信頼が必要である。



- ・ 高齢化が進み、役員を避けるために脱退される方がいる。
- ・ 脱退を検討している方でも、日頃より関わりのある場合、脱退理由を聞いたりして、話し合うことで、最終的に残った方もいる。
- ・ 役員が中々決まらない場合は、くじ引きで決めている。
- ・ 昔と違い、世帯数が減少することはあっても増加することがない。
- ・ 自治会内に空き家が増えた。
- ・ 災害時の障害者や高齢者等の要援護者への対応について不安がある。
- ・ 防災マニュアルがないため作成を検討している。

(5) 終了